

2019年7月18日
株式会社東陽テクニカ

**2020年の“医療被ばく線量管理”義務化に備えて何をやるべきかわからない、
そんな声にお答えし、実例をまじえた今知っておきたい情報をお届けする**

「医療被ばく線量管理セミナー」追加開催決定！

株式会社東陽テクニカ(本社：東京都中央区、代表取締役社長：五味 勝)は、医療従事者の方を対象に、2020年4月に義務化される見込みの「医療被ばく線量管理」に関するセミナーを2019年7月20日と21日の両日*、東京都中央区の東陽テクニカ本社にて開催いたします。すでに線量管理を行っている病院での事例紹介をはじめ、ヨーロッパでの先進的な線量管理の実態など、義務化に向けて今何をすべきかを知ることのできる内容です。7月20日の回が満席となりましたので7月21日に追加開催を決定いたしました。

*セミナーは両日とも同内容です



医療被ばく線量管理システムイメージ



セミナー風景イメージ

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構様、医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院様からそれぞれ講師をお招きし講演いただきます。また、ヨーロッパを中心に世界 600 以上の医療機関で採用されている医療被ばく線量管理システム「DOSE」のメーカーであるベルギーの QAELUM 社 CEO、Mr. Jurgen Jacobs が線量管理の進むヨーロッパの現状について講演いたします。

「医療被ばく線量管理」について

CT(コンピューター断層撮影)をはじめとする放射線を用いた医療検査装置における、患者の被ばくによる健康への影響が注目され、世界中で線量管理への意識が高まっています。日本でも2020年4月施行の法改正により線量の記録、管理が義務化される見込みです。この法改正への対応をしなければならない一方、例えばCTでは使用する線量と得られる検査画像の画質にはトレードオフの関係があるため、ただ被ばく線量を減らすのではなく、適切な線量で診断に必要なレベルの画質を得ることが必要です。

適切な線量管理のために

東陽テクニカでは、放射線を利用する検査装置から患者一人一人の被ばく線量情報を収集して、検査画像の画質と被ばく線量とを「最適化」するソフトウェアツール「DOSE」を販売しています。「DOSE」は線量の収集だけでなく、分析、フィードバックを行うことができ、これを利用することで各医療施設の現状に沿った最適化を実現します。

セミナー概要

- 日時： 2019年7月20日(土) 14:00～19:00 (満席)
7月21日(日) 13:00～18:00
- 場所： 東陽テクニカ本社 (東京都中央区八重洲 1-1-6)
- 定員： 各日 100名
- 参加費用： 無料
- プログラム：
 1. タイトル：医療被ばくの適正管理 – 管理のあり方、今後の展望 –
講師：国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 情報基盤部 部長 奥田保男先生
 2. タイトル：上尾中央総合病院における線量管理の実例
講師：医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 放射線技術科 佐々木健先生
 3. タイトル：ヨーロッパにおける線量管理の現状と今後の展開
講師：QAELUM 社 CEO Mr. Jurgen Jacobs ※日本語による解説あり
 4. 医療被ばく線量管理システム「DOSE」製品デモンストレーション
 5. 情報交換会 ※自由参加
7月20日(土) 18:00～19:00
7月21日(日) 17:00～18:00

●詳細およびお申込み Web サイト：https://www.toyo.co.jp/dose_seminar201907

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ ライフサイエンス&マテリアルズ
TEL：03-3245-1351 (直通) E-mail：medical@toyo.co.jp

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。